

2025 年度第 1 回一宮市立図書館協議会会議録（要旨）

- 1 開催日時 2025 年 9 月 30 日（火）午前 10 時～11 時 25 分
- 2 開催場所 中央図書館 6 階 多目的室 1
- 3 出席者 委員 9 名、事務局 8 名
- 4 傍聴者 なし
- 5 議 題
 - （1）会長・副会長の選出について
 - （2）2025（令和 7）年度当初予算について
 - （3）2024（令和 6）年度の活動状況について
 - （4）その他
- 6 開 会 （事務局が開会を宣言）
協議会委員、事務局職員、自己紹介
活力創造部次長挨拶
- 7 会 議（要旨）
 - （事務局）議題（1）について説明後、互選により会長を選出。副会長は会長の選任により選出。会長、副会長の挨拶後、会長が議長となり議事進行。
 - （事務局）議題（2）について資料に基づき説明。
 - （委 員）施設修繕料で尾西と木曽川が増額という説明がありましたが、具体的にどういった修繕するのか教えてください。
 - （事務局）尾西図書館は築 44 年で、いろいろ傷みが出てきています。令和 7 年度は、外壁補修を行っています。これは今年度、来年度と少しずつ進めていきます。それから前年度に火災報知機の誤報があり、ほとんどの火災報知機が同じ時期に設置されているので、そういった誤報を防ぐために事前に少しずつ交換していくということで増額しています。
 - （事務局）木曽川は開館当初からの電話設備をそのまま使っており、市内でこの設備を使っているのは木曽川図書館だけで、昨年の計画停電の時に不具合が出たため、早急に修繕が必要ということで、金額としては 280 万程度の修繕をしました。
 - （委 員）資料の 2 ページ目、真ん中の視聴覚の資料点数という表で、『図書館年報』の 10 ページの⑤AV 資料の表からカセットテープとビデオテープそれからコンパクトディスク、DVD を抽出した合計数をあげていると思うが、一つ提案で、DVD の後ろに例えば「その他」と入れて、ほかのこの 4 つ以外のものをそれぞれ入れると『図書館年報』との整合性が取れてくると思います。それとコンパクトディスクという表現ですが、『図書館年報』のほうでは CD と書いてあるので、DVD と CD というような表現でもいいのではと思います。
 - （委 員）増額の要因として、最低賃金が上がったっていうのは、今の時代、どこの部署にも当てはまると思うが、職員の人数の増減に関してはどうでしょうか。
 - （委 員）『図書館年報』の 7 ページに図書館の組織というのがあり、中央、尾西、木曽川、子文の職員の数が括弧書きで書かれています。中央は庶務グループが（3）、中央サービスグループが（5）、尾西が（3）、木曽川が（2）、子文が（2）。あとはそれぞれ専任課長。木曽川サービスグループが昨年までは（3）だったのに、令和 5 年から 6 年にかけて（3）から（2）に、いわゆる人数が減になっています。会計年度任用職員で補充はしていると思うが。
 - （事務局）『図書館年報』は 2025 年 3 月 31 日現在で掲載していますが、職員が急遽 5 月に退職したため、会計年度任用職員 1 人を雇用し、今年の 4 月からは通常どおり（3）に戻っています。
 - （会 長）次に議題の（3）「2024（令和 6）年度の活動状況について」事務局の説明をお願いします。
 - （事務局）議題（3）について『図書館年報』に基づき説明。
 - （委 員）39 ページの見学で、小学校のうちの 11 校がリモートということだが、リモートの見学というのはどのようにやるのでしょうか。

- (事務局) コロナが始まったころ、図書館に見学に来ることができなくなったため、図書館の中を映し、概要を説明できるような動画を作成しました。その映像を各学校が事前に見られるようになっていました。それを子どもたちが見た上で、質問を頂いて、それに対して、Zoomでつないで、直接学校と図書館とでやりとりを行って質問に答えるという流れになっています。
- (委員) 一宮の図書館の中には子どもに特化した子ども文化広場図書館がありますが、子どもたちに紹介するのは中央図書館だけなのか、その映像の中に子ども文化広場図書館の映像もありますか。
- (事務局) 映像に関しては中央図書館しか作っていません。ただ、質問に関しては図書館全般のこととか、ほたる号についての質問もよくあります。
- (委員) やはり身近に感じるには、それぞれの地域の図書館があるので、その紹介も加えるといいのでは。中央図書館は施設としてはすごくいいが、遠くの子たちはなかなか通えないので、まず身近な図書館で子どもたちに利用してもらうのがいいのかなと。ご検討頂けますか。
- (事務局) 図書館見学は中央図書館だけではなくて、各図書館でも行っています。
- (委員) ほかの図書館でもやっていますか。リモートだけが、中央図書館ということですね。ありがとうございます。
- (委員) 尾西や木曽川で図書館見学をした学校で、中央図書館のリモート見学と両方を実施した小学校もあるってことですね。
- (事務局) 学校ごとに特色があるかとは思いますが、リモートを選択するところと、そもそも図書館見学をやらないというところもあるので、学校の授業の進め方とか、地域性があるのではと思っています。
- (委員) 子どもさんたちが、たくさん見学をして図書館を知る機会はとても大切だが、自分一人ではなかなか来れないと、結局は保護者の力が必要で、その親の意識というか保護者へのアプローチをするようなきっかけみたいなものが作れるといいと思います。大人が図書館の利用を知る機会というのが、あまりないと思う。
- (委員) 結局は家庭の役割とか、地域の役割、小学校の役割、子育て支援の役割、これ全部が繋がらないとうまく進んでいかないと。家庭の役割というのが、今はなかなか難しい。親に余裕がない。絵本を読んであげるといって、かなり心の余裕がないと、子どもと向き合うというのが今本当に難しい。そうするとやっぱりそれをフォローするのはどこだろうかということを考えて、まず、それこそ保育園の乳児からとか、幼児、それよりもっと下だったら子育て支援センター。そのあたりとのつながりも求めながら、みんなでやっていかないと。
- (委員) やはり親御さんが本を好きじゃないと、子どもさんが絵本に触れる機会がないというのは私自身もすごく感じています。今、絵本もいろいろ工夫されていて、大人のための絵本というか、大人の心に刺さる絵本もいっぱい出ています。ここはもう子どもを切り離して、大人の絵本の読み聞かせというのは面白いなと。私たちは子どものためと言っているけれども、親御さんも絵本で癒やされたりするし私自身そうですし、そこから始めてもいいのかなと。そうすると自然に子どもがついてくるといって、そんなふうに思いました。
- (委員) 何かお得感があるというか、何かのきっかけで一緒に行くというふうじゃないと、自分だけ行くっていうのはなかなかないのかな。でも何かそういう部分がない限り、読み聞かせなんて子どものものだよというのが普通。
- (委員) 私が思うには、ブックスタートをうまく活用して、ブックスタートだと必ず健診で親御さんが来てくださるので、そこでちょっと親御さんともお話できますし、その機会に図書館の利用を促すような、啓発ができるのがいいかなと思っています。
- (委員) この間、博物館と美術館と3館めぐりといって、スタンプラリーをやっていたのですが、図書館も館ごとに何か特色を持って、ここに行くところが今は置いてある、この図書館にはこういうのがあるといった、夏休み期間だけでもそういうイベント的なものもいいのではないかと、博物館に行きながらそう思いました。そうすると大人も子どもも一緒に出かけられるのではないかと。図書館の場所も分かるし。

- (委員) やっぱ子どもにとって、一番身近なのは、長い時間を過ごす学校であったり、保育園、幼稚園だったり、その環境が一番、本に触れる機会が多いと、今いろいろお話を伺いながら思いました。学校の図書館と、その地域の図書館の連携というのは、何かできているのでしょうか。
- (事務局) 各学校に市立図書館の本を1か月に150冊まで貸出ができるという学校支援制度があり、各学校から授業で使うものや生徒に読んでほしい本を予約してもらい、1か月に1回貸出をしています。また移動図書館ほたる号が小学校13校に毎月行っています。その他、最近の事例ですが、中学校で一宮市のことについてみんなで何かテーマを決めて調べるという授業をやるので、中学生向きの一宮に関する本を借りたいという要望があり、適当な本を見繕って学校支援事業の中で貸出を行ったことがあります。
- (委員) 私はストーリーテリングをやっています。子どもさんが来てくださるとなるべく、おうちの人も一緒にどうぞとお誘いしますが、そういうとき入ってくださる親御さんは、本に興味のある方が多いので、きつとうちでも子どもさんに読み聞かせされているんだなというのは感じるし、全然興味がない人と興味があるおうちの方とが分かれてしまっている、そこをどう誘うのかというのが、課題だと思っています。
- (委員) 大人を引っ張れるような何かの行事をすれば、親子さんで同じことを経験できるというのはいいことだなと思います。
- (委員) マタニティの教室がすごく人気がありますが、今の若い方たちは2人で一緒にスケジュールして、結構イベント事と捉えて子育てをしていて、男性も育休をとるのですごく前向きに子育てに取り組んでいます。そういうイベント好きだし、こういうことが子どもの体や脳にいいらしいとか、何かいい情報をすごく取りたがる傾向があり、そのときにもらった情報をすごく素直に受け入れる世代でもあるので、そのマタニティ教室に夫婦で来るところにスポットを当てて、今話のあった大人向けの癒やしの内容が盛り込まれた絵本をご紹介します、読み聞かせをする、それをおなかの赤ちゃんと一緒に聞きましょうといったことをちょっとおまけにくっつけると、男性もこういうことっていいんだということをそこで知るし、絵本の読み聞かせはお母さんの声ですのもいいけどお父さんの読み聞かせも味があっていいんだよというようなことを、そこでお話されるといいのでは。そこがきっかけで、子どもに読み聞かせをしたいから図書館で絵本を借りる、ついでにちょっと仕事の本も借りていこうかなと、そういうふうに図書館に足を運ぶきっかけにもなるのではと思うので、夫婦で来るそのイベントみたいなところに入り込むような仕組みが、部や課をまたいでできないかと今、思いました。
- (委員) 親御さんたちも、自分が子どもの頃はきっと読んでもらって絵本に触れていて、だから子どもの成長には大事だということは分かっているけれども、機会がないというか、そういうところもあると思います。今の話、いろんな場所で働きかける、そういうきっかけを作ってあげるというのは大事かなと思いました。
- (委員) また表についての一つ御提案ですが、『図書館年報』の27ページ、(5)の入館者数、各館の入館者数がありました。次長の御挨拶の中で一宮市の図書館の入館者が110万という数字が出ておりましたので、入館者の合計あったかなと思ってちらっと見たら、合計が入ってなかったのが、中央、尾西、木曽川、子文、地域文化広場、その下に合計という表を一つ入れたら、より表も見やすくなるかなという提案です。
- (会長) 意見も出尽くしたようでございますので、議題の(3)につきましてはこれで終了とさせていただきます。
- 次に、議題4その他について、事務局側から何かありますか。
- (事務局) 2025年度の第2回の協議会につきましては、2月を予定しておりますのでまた日程を調整の上連絡させていただきます。
- (会長) ありがとうございます。それでは本日本定をしておりました議題は全て終了いたしました。議事進行を事務局へお返しいたします。
- (事務局) それでは大変貴重な審議、ありがとうございます。以上をもちまして、本日の図書館協議会を閉じさせていただきます。